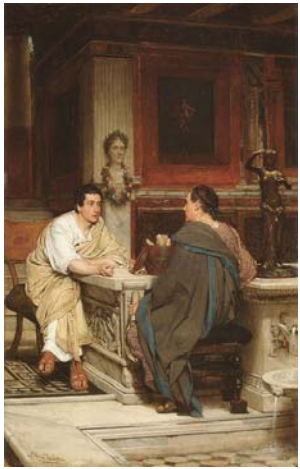


研究者総覧：ヘイグ、エドワード (HAIG, Edward)

氏名	ヘイグ、エドワード (HAIG, Edward)	
職名	教授	
所属講座	メディアプロフェッショナルコース	
学位（専攻分野）	博士（生態学）・ロンドン大学 博士（言語学）・ランカスター大学	
メールアドレス	haig@lang.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~haig/	
研究分野	批判的言説分析 (Critical Discourse Analysis)	
	体系機能言語学 (Systemic Functional Linguistics)	
	外国語としての英語 (English as a Foreign Language)	
	エコリングウイステイクス (Ecolinguistics)	
現在の研究テーマ	ニュース報道における青年犯罪についてのイデオロギー	
所属学会	日本時事英語学会	
	日本機能言語学会	
主要著書・論文	Haig, E. (2010) “The Influence of Ideology on Aspects of Interpersonal Meaning in a Radio News Bulletin about Youth Crime”. <i>Studies in Media and Society</i> , No. 2. (pp. 61-86).	
	日本機械学会、石田幸男、遠藤守、Edward Haig、Steven Quasha (2009) 『続 科学英語の書き方とプレゼンテーションスライド・スピーチ・メールの実際』, コロナ社.	
	Haig, E. (2008) “A Critical Discourse Study of Youth Crime in UK radio news”. <i>Identity in Text Interpretation and Everyday Life</i> (Global COE Program International Conference Series, No. 3). (pp.133-150) Graduate School of Letters, Nagoya University).	
	Haig, E. (2006) “How Green Are Your Textbooks? Applying an Ecological Critical Language Awareness Pedagogy in the EFL Classroom”. In Mayer, S. and Wilson, G. (eds) <i>Ecodidactic Perspectives on English Language, Literatures and Cultures</i> , (pp. 23-44) Wissenschaftlicher Verlag, Trier.	
	石田幸男、村田泰美、メンショフ・イゴール、ヘイグ・エドワード、長谷照一 (2004) 『科学英語の書き方とプレゼンテーション』, コロナ社.	
自己紹介文	1990年に私が生まれ育った国、イギリスから日本に渡りました。当初の研究分野は外国語としての英語教育(EFL)であり、英語教育における「演劇」をテーマにして、その他、多岐にわたる教	

	<p>育手法を研究トピックとしておりました。学生が楽しくまた積極的に英語を発話できる手法として特に私が関心を置いていたのは「即興劇」であります。それに加え、授業管理、環境問題を取りあげた授業、批判的教授法、そして外国語としての英語教育におけるプロフェッショナルリズム言説など、幅広い範囲で研究を行ってきました。</p> <p>近年、メディアプロフェッショナルコースの所属になって以来、主にメディア間に生じる言語と現代社会の間の力関係についての研究を手がけるようになりました。当研究は批判的言説分析(CDA)及び体系機能言語学(SFL)の理論と手法を根底に、政治言説及び報道で使用される言語の研究を行います。私の最近の研究においては青年犯罪に関してどのように英国ラジオ放送がその問題を報道するかというテーマで研究を行いました。メディアが主張するところの客観性と中立の立場の間にみられる矛盾という、ある種のイデオロギーに反映された報道をその研究において実例を挙げながら分析を試みました。</p> <p>研究の息抜きにはバドミントン、ジョギング、ハイキングをします。英国人として、英国紅茶を飲むのも、息抜きのひとつです。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>以下に挙げる研究分野に携わる修士課程及び博士後期課程の学生の指導を行います。</p> <p>1. メディア言語における批判的言説分析</p> <p>批判的言説分析（CDA）が導入されて以来、言語と現代社会における力関係に関する研究の新しい手法として、人気が非常に高まってきました。CDAの研究によって、文字媒体である新聞記事及び音声のラジオ放送に加え、テレビや映画などから発信される映像テキストにも及んで、マルチモダル・テキスト、つまり「言葉」のみならず「イメージ」及び「サウンド」も含むテキストの分析が可能となりました。CDA研究が批判的メディアリテラシーにおける教育の発展に貢献している点は、その研究の社会的応用として非常に重要な位置を示していると言えます。</p> <p>2. 体系機能言語学とメディア言語</p>



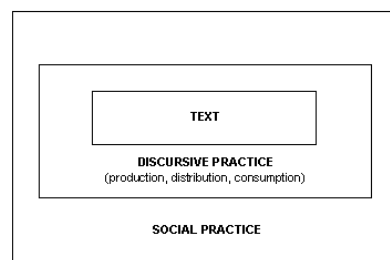
The Discourse (Sir Lawrence Alma-Tadema, 1836-1912)

体系機能言語学 (SFL) は言語描写・分析に関する実践的で社会性をもつアプローチで、もともとは中国語の分析から生まれた手法です。そこから日本語を含む様々な言語の研究へと発展し、特に英語の分析

への応用が飛躍的となりました。メディア言説に関わる研究の多くはこの SFL にその手法を根底においています。

3. ラジオ研究

ラジオは 100 年もの歴史をもちながら、その人気はまだまだ衰えず、近年インターネット放送なども手伝って、その人気はますます急上昇しています。ラジオは時空間の自由なメディア媒体であり、音声による報道に拠るといったユニークな特徴を持ちます。



A CDA Model of Discourse